



令和7年度 妙円寺小学校だより

たえ きずな 妙なる絆

新春号

児童数454人 職員38人 TEL273-1822 令和8年1月8日発行

令和8年(2026年)の幕開けにあたり 【天馬空を行くかのごとく】

校長 有村 恵

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。初日を臨む心静かな幕開けとなりました。

年が改まるとき、背筋が不思議とピンと伸びるような気がします。人の心持ちは誠に不思議なものですね。一月一日は特別な日です。

さて、三学期がスタートしました。どの世界でも、日進月歩。科学の発展、とりわけAIの技術の進歩は目を見張るものがあります。小学校ではまだ、授業の中には、本校では取り入れてはおりませんが、現代社会では、あらゆる分野でAIを活用しているシーンを目にすることがあります。

私もこのような文章を書く場面でAIを活用しているところを散見したことがあります。AIは、条件を入れると瞬時に文章を完成させます。しかし、そのままではまだまだ使うことはできないので、それを人の目で推敲し、完成させていくようです。AIの知識の集積が高まると更に今後は精度の高い文書が出来上がっていくと言われています。そして、人が書いたのかAIが書いたのか分からなくなってくるとも言われています。AIをいろいろな場面で活用することで、時間が生み出され、その生み出された時間を別なことに活用することができるという利点もあるようです。

昔のことではありますが、文章を書くときは、書いては消し、消しては書きながら、少しづつ、少しづつ自分の言葉で文章を書くものでした。浮かばなければ、外に行ったり、畳の上に寝転んだりしながら、少しづつ、少しづつ文字を書いていくものでした。「文字を紡ぐ」という言葉があるくらいですので、まさに、縦糸と横糸を合わせながら、布を織る、それぐらい時間がかかる作業であるということだと思います。

私も、パソコンで書いてはいますが、少し格好良く言えば「文字を紡いで」います。しかし残念なことに全くもってよい文章は書けませんし、何度も読み返しても主述が捻れ、納得のいく文章は書けません。声に出して、何度も推敲するのですが恥ずかしい限りです。

でも、どんなに稚拙であったとしても私しかかけないオリジナルの文章を書いています。常に、私の思いを込めて精一杯書いています。したがって、お読み頂く方が共感できる面もあるかもしれませんし、なかなか納得できない面もあるかもしれません。

書くことによって、頭の中が整理され、足りなかった自分にも気がつかれます。そして、また、次に進めるような気がします。AIを使うことを否定するつもりはありませんが、私自身は、まだまだ自分の浅学を反省しながら、今後も一文字、一文字、丁寧に紡いでいきたいと思います。

今年も、本校に通う全ての宝物の子供たちのために、「チーム妙円寺小」で懸命に進めて参ります。御協力・御理解をよろしくお願ひします。

